

サービス等生産性向上IT導入支援事業 『IT導入補助金2024』の概要

令和6年1月

中小企業庁

- 1. IT導入補助金の概要**
2. 申請要件・審査のポイント
3. 申請方法から補助金交付までの流れ
4. これまでの実績
5. 活用事例

「IT導入補助金2024」の概要（令和5年度補正）

- 中小企業・小規模事業者等の労働生産性の向上を目的として、業務効率化やDX等に向けたITツール（ソフトウェア、アプリ、サービス等）の導入を支援する補助金。

1. 補助対象事業者

中小企業・小規模事業者等（飲食、宿泊、小売・卸、運輸、医療、介護、保育等のサービス業の他、製造業や建設業等も対象）
※インボイス枠電子取引類型では、大企業も補助対象事業者を含む。

2. 補助対象ツール

事前に事務局の審査を受け、補助金HPに公開（登録）されているITツール（ソフトウェア、サービス等）が対象。
相談対応等のサポート費用やクラウドサービス利用料等も補助対象を含む。

3. 補助額・補助率

	通常枠	複数社連携 IT導入枠	インボイス枠		セキュリティ 対策推進枠
			インボイス対応類型	電子取引類型	
要件	業務効率化やDXの推進等に資するITツールの導入	複数の中小・小規模事業者が連携してITツール及びハードウェアを導入	インボイス制度に対応し、会計・受発注・決済の機能を有するITツール及びそのためのハードウェアを導入	発注者がインボイス制度に対応し、受発注機能を有するITツールを導入し、受注者が無料で利用	サイバーセキュリティお助け隊サービスを導入
補助上限	ITツールの業務領域が 1～3まで：5万円～150万円 4以上：150万円～450万円	(a)インボイス枠対象経費：同右 (b)消費動向等分析経費：50万円×グループ構成員数 (a)+(b) 合わせて3,000万円まで (c)事務費・専門家費：200万円	ITツール： 1 機能：～50万円 2 機能以上：～350万円 PC・タブレット等：～10万円 レジ・券売機等：～20万円	～350万円	5万円～100万円
補助率	中小企業：1/2	(a)インボイス枠対象経費：同右 (b)・(c)：2/3	～50万円以下：3/4 (小規模事業者：4/5) 50万円～350万円：2/3 ハードウェア購入費：1/2	中小企業：2/3 大企業：1/2	中小企業：1/2
対象経費	ソフトウェア購入費、クラウド利用料（最大2年分）、導入関連費	ソフトウェア購入費、クラウド利用料（最大2年分）、導入関連費、ハードウェア購入費	ソフトウェア購入費、クラウド利用料（最大2年分）、導入関連費、ハードウェア購入費	クラウド利用料（最大2年分）	サイバーセキュリティお助け隊サービス利用料（最大2年分）

(参考) 補助の対象となる中小企業・小規模事業者等

※インボイス枠電子取引類型では、大企業も補助対象事業者を含む。

業種分類	要件
①製造業、建設業、運輸業	資本金の額又は出資の総額が3億円以下の会社又は常時使用する従業員の数が300人以下の会社及び個人事業主
②卸売業	資本金の額又は出資の総額が1億円以下の会社又は常時使用する従業員の数が100人以下の会社及び個人事業主
③サービス業 (ソフトウェア業又は情報処理サービス業、旅館業を除く)	資本金の額又は出資の総額が5千万円以下の会社又は常時使用する従業員の数が100人以下の会社及び個人事業主
④小売業	資本金の額又は出資の総額が5千万円以下の会社又は常時使用する従業員の数が50人以下の会社及び個人事業主
⑤ゴム製品製造業 (自動車又は航空機用タイヤ及びチューブ製造業並びに工業用ベルト製造業を除く)	資本金の額又は出資の総額が3億円以下の会社又は常時使用する従業員の数が900人以下の会社及び個人事業主
⑥ソフトウェア業又は情報処理サービス業	資本金の額又は出資の総額が3億円以下の会社又は常時使用する従業員の数が300人以下の会社及び個人事業主
⑦旅館業	資本金の額又は出資の総額が5千万円以下の会社又は常時使用する従業員の数が200人以下の会社及び個人事業主
⑧その他の業種(上記以外)	資本金の額又は出資の総額が3億円以下の会社又は常時使用する従業員の数が300人以下の会社及び個人事業主
⑨医療法人、社会福祉法人	常時使用する従業員の数が300人以下の者
⑩学校法人	常時使用する従業員の数が300人以下の者
⑪商工会・都道府県商工会連合会及び商工会議所	常時使用する従業員の数が100人以下の者
⑫中小企業支援法第2条第1項第4号に規定される中小企業団体	上記①～⑧の業種分類に基づき、その主たる業種に記載の従業員規模以下の者
⑬特別の法律によって設立された組合又はその連合会	上記①～⑧の業種分類に基づき、その主たる業種に記載の従業員規模以下の者
⑭財団法人(一般・公益)、社団法人(一般・公益)	上記①～⑧の業種分類に基づき、その主たる業種に記載の従業員規模以下の者
⑮特定非営利活動法人	上記①～⑧の業種分類に基づき、その主たる業種に記載の従業員規模以下の者

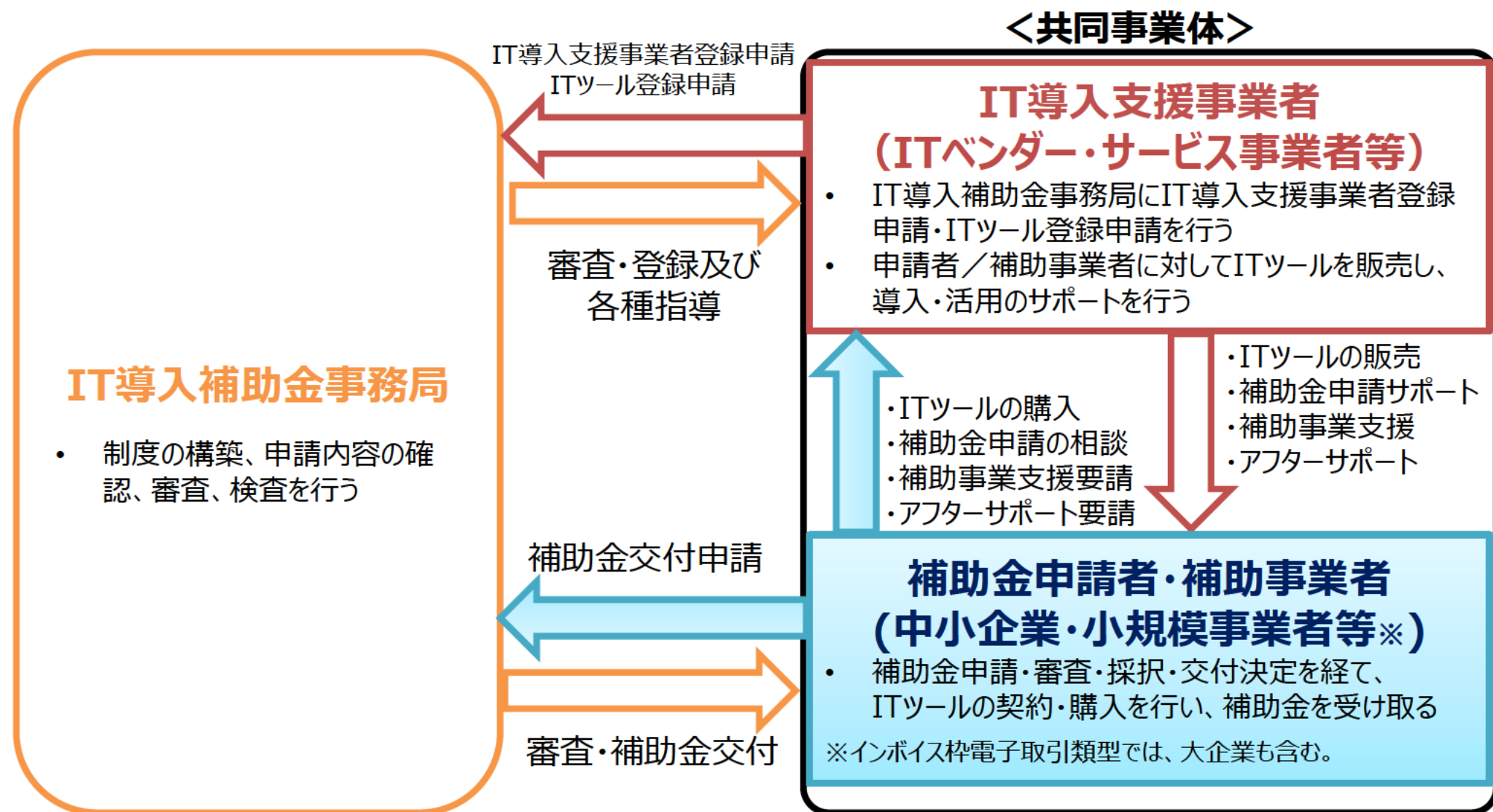
【参考】「IT導入補助金2024」での拡充点

- 10月1日に開始されたインボイス制度を強力に支えるため、**インボイスに特化した支援枠を新設。**
- 特に、小規模事業者におけるインボイス制度に対応したITツール導入を強力に支援するため、**小規模事業者に対して一部高い補助率を設定（4/5）。**
- そのほか、支援枠・類型の一部見直しを実施。

	通常枠	複数社連携 IT導入枠	インボイス枠		セキュリティ 対策推進枠
			インボイス対応類型	電子取引類型	
要件	業務効率化やDXの推進等に資するITツールの導入	複数の中小・小規模事業者が連携してITツール及びハードウェアを導入	インボイス制度に対応し、会計・受発注・決済の機能を有するITツール及びそのためのハードウェアを導入	発注者がインボイス制度に対応し、受発注機能を有するITツールを導入し、受注者が無料で利用	サイバーセキュリティお助け隊サービスを導入
補助上限	ITツールの業務領域が 1～3まで：5万円～150万円 4以上：150万円～450万円	(a)インボイス枠対象経費：同右 (b)消費動向等分析経費：50万円×グループ構成員数 (a)+(b) 合わせて3,000万円まで (c)事務費・専門家費：200万円	ITツール： 1 機能：～50万円 2 機能以上：～350万円 PC・タブレット等： ～10万円 レジ・券売機等： ～20万円	～350万円	5万円～100万円
補助率	中小企業：1/2	(a)インボイス枠対象経費：同右 (b)・(c)：2/3	～50万円以下：3/4 (小規模事業者：4/5) 50万円～350万円：2/3 ハードウェア購入費：1/2	中小企業：2/3 大企業：1/2	中小企業：1/2
対象経費	ソフトウェア購入費、クラウド利用料（最大2年分）、導入関連費	ソフトウェア購入費、クラウド利用料（最大2年分）、導入関連費、ハードウェア購入費	ソフトウェア購入費、クラウド利用料（最大2年分）、導入関連費、ハードウェア購入費	クラウド利用料（最大2年分）	サイバーセキュリティお助け隊サービス利用料（最大2年分）

補助スキーム

- 補助金申請者（中小企業・小規模事業者等）は、IT導入補助金事務局に登録された「IT導入支援事業者」とパートナーシップを組んで申請することが必要。



通常枠の概要

1. 概要

- 中小企業・小規模事業者等が、働き方改革、被用者保険の適用拡大、賃上げ、インボイスの導入等に対応するため、生産性の向上に資するITツール（ソフトウェア、サービス等）の導入費用を支援する。

2. 補助事業者

- 中小企業・小規模事業者等

3. 事業イメージ（例）

- 導入したITツールを活用して、生産性向上に取り組む。

4. 補助対象経費（一例）

- ソフトウェア
ソフトウェア購入費、クラウド利用料（最大2年分）
 - 導入関連費（オプション）
機能拡張やデータ連携ツールの導入、セキュリティ対策実施に係る費用
 - 導入関連費（役務の提供）
導入コンサルティング、導入設定・マニュアル作成・導入研修、保守サポートに係る費用
- <ITツールの要件>
右図の内、1種類以上の業務プロセスを保有するソフトウェアを申請すること（汎P-07のみは不可）

	種別	Pコード	プロセス名
業務プロセス	共通プロセス	共P-01	顧客対応・販売支援
		共P-02	決済・債権債務・資金回収管理
		共P-03	調達・供給・在庫・物流
		共P-04	会計・財務・経営
		共P-05	総務・人事・給与・労務・教育訓練・法務・情シス
	業種特化型プロセス	各業種P-06	業種固有プロセス
	汎用プロセス	汎P-07	汎用・自動化・分析ツール (業種・業務が限定されないが生産性向上への寄与が認められる業務プロセスに付随しない専用のソフトウェア)

5. 補助額・補助率

ITツールの業務領域が1～3まで：補助額5万円～150万円未満（補助率1／2以内）

ITツールの業務領域が4つ以上：補助額150万円～450万円以下（補助率1／2以内）

※ITツールの業務領域が4つ以上の場合は、事業計画期間において、給与支給総額を年平均成長率1.5%以上増加させ、事業場内最低賃金（事業場内で最も低い賃金）を地域別最低賃金＋30円以上の水準にする賃金引上げ計画を策定し、従業員に表明していることが必要。

複数社連携IT導入枠の概要

1. 概要

- 複数の中小・小規模事業者が連携してITツール及びハードウェアを導入することにより、地域DXの実現や、生産性の向上を図る取組に対して、複数社へのITツールの導入等を支援する。

2. 補助事業者

※事業に参加する中小企業・小規模事業者等は「10者以上」であること等を要件とする。

- 商工団体等
(例) 商店街振興組合、商工会議所、商工会、事業協同組合 等
- 当該地域のまちづくり、商業活性化、観光振興等の担い手として事業に取り組むことができる中小企業者又は団体
(例) まちづくり会社、観光地域づくり法人(DMO) 等
- 複数の中小企業・小規模事業者等により形成されるコンソーシアム

3. 補助対象経費（一例）

(1) 基盤導入経費

- ITツール：会計ソフト、受発注ソフト、決済ソフトに限る【クラウド利用料は最大2年分】
- ハードウェア：PC・タブレット、レジ・券売機等

(2) 消費動向等分析経費

- ITツール：消費動向分析システム、経営分析システム、需要予測システム、電子地域通貨システム、キャッシュレスシステム、生体認証決済システム 等【クラウド利用料は1年分】
- ハードウェア：AIカメラ、ビーコン、デジタルサイネージ 等

(3) 参画事業者のとりまとめに係る事務費、専門家費

4. 補助率・補助上限額

● 補助率

- (1) 基盤導入経費：1/2～3/4、4/5（インボイス枠インボイス対応類型と同様）
- (2) 消費動向等分析経費：2/3以内、(3) 事務費、専門家費：2/3以内

- 補助上限額：(1) + (2) ⇒ 3,000万円、(3) ⇒ 200万円

「複数社連携IT導入枠」の具体的な取組イメージ

- 商業集積地等における消費動向等を分析するシステム等を導入し、データの収集・分析によりデジタルマーケティングを行うことで、当該地域の来街者増や回遊性向上等を図り、生産性向上につなげる。

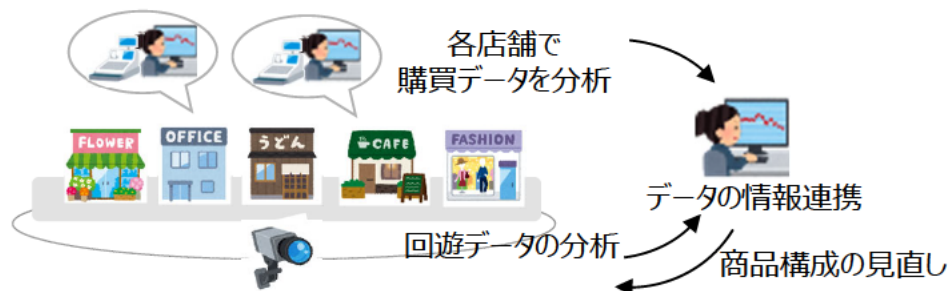
①地域にAIカメラ + 個店にPOSデータ分析システム

＜地域全体＞ AIカメラで取得した来街者の属性や回遊データを分析

＜地域内の店舗＞ POSデータ分析システムにより各店舗の購買データを分析

×

回遊性等の分析結果と店舗の売れ筋等を比較し商品構成の見直しなどに繋げる。



対象経費例 <ハードウェア> AIカメラ、POSレジ <ソフトウェア> 分析システム導入費

②地域にビーコン + 個店にAIカメラ

＜地域全体＞ ビーコンで来街者に情報を発信

＜地域内の店舗＞ AIカメラで取得した各個店の消費者動向データを分析

×

各個店のターゲット層に近い来街者に向け、効果的な情報発信を行う。



対象経費例 <ハードウェア> ビーコン、AIカメラ <ソフトウェア> 分析システム導入費

③地域に電子地域通貨 + 個店に分析アプリ

＜地域全体＞ 電子地域通貨による地域経済の活性化やアプリによるクーポンの発行

＜地域の店舗＞ 電子地域通貨の利用状況から消費者の購買データを分析

×

消費者の購買状況を踏まえた効果的な情報発信を行い来街を促進する。



対象経費例 <ハードウェア> キャッシュレス機器 <ソフトウェア> アプリ導入費、分析システム導入費

④地域にセンサー技術（人流・気象・交通量等）

＜地域全体＞ 人流・気象・交通量などが計測できるセンサーを導入し、データを分析

＜地域の店舗＞ 各店舗で需要を予測

×

来街者等のデータをもとに各店舗が需要予測を行い、業務効率の改善を行う。



対象経費例 <ハードウェア> センサー <ソフトウェア> 分析システム、需要予測システム導入費

インボイス枠（インボイス対応類型）の概要

1. 概要

- 中小企業・小規模事業者等に、インボイス制度に対応したITツールの導入を強力に推進するため、会計ソフト・受発注ソフト・決済ソフトの導入費用に加え、PC・タブレット、レジ・券売機等の導入費用を支援する。

2. 補助事業者

- 中小企業・小規模事業者等（従来のIT導入補助金と同様）

3. 事業イメージ（例）

- 導入したITツール及びハードウェアを活用して、生産性向上に取り組む。【ITツールの補助率・補助上限額の関係】

4. 補助対象経費（一例）

- （1）ソフトウェア、オプション、役務
ソフトウェア購入費、クラウド利用料(最大2年分)、
オプション(セキュリティソフト等)、役務費(導入支援費、保守費等)
※インボイス制度に対応し、「会計」・「受発注」・「決済」の機能を有するものに限る。

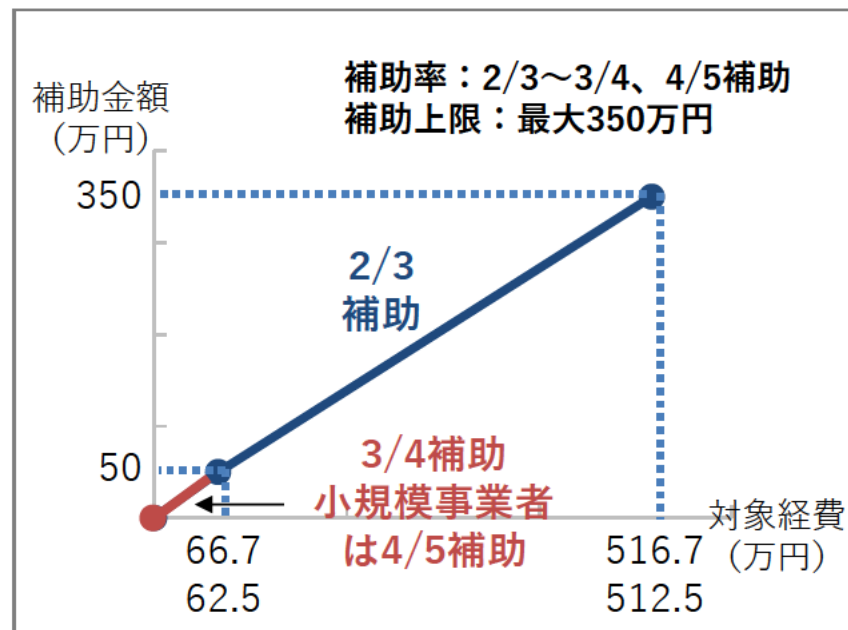
- （2）ハードウェア
ソフトウェア・クラウドサービスの使用に資する機器
(PC・タブレット、レジ・券売機等)購入費用、設置費用

5. 補助額・補助率

ITツール：補助額50万円以下（補助率 3 / 4 以内、**小規模事業者は 4 / 5 以内**）、
補助額50万円超～350万円（補助率 2 / 3 以内）

⇒導入するITツールが「会計」・「受発注」・「決済」の機能を2機能以上有する場合は、補助額350万円以下の申請が可能。
(1機能の場合は、補助額50万円以下の申請が可能。)

PC・タブレット等：補助額10万円まで（補助率 1 / 2 以内）、レジ・券売機等：補助額20万円まで（補助率 1 / 2 以内）



インボイス枠（電子取引類型）の概要

1. 概要

- 取引関係における発注者が、インボイス制度対応のITツール（受発注ソフト）を導入し、当該取引関係における受注者である中小企業・小規模事業者等に対して無償でアカウントを供与して利用させる場合に、その導入費用の一部を支援する。

2. 補助事業者

- 中小企業・小規模事業者等、大企業等

3. 事業イメージ（例）

- 導入したITツールを活用して、生産性向上・インボイス制度対応に取り組む。

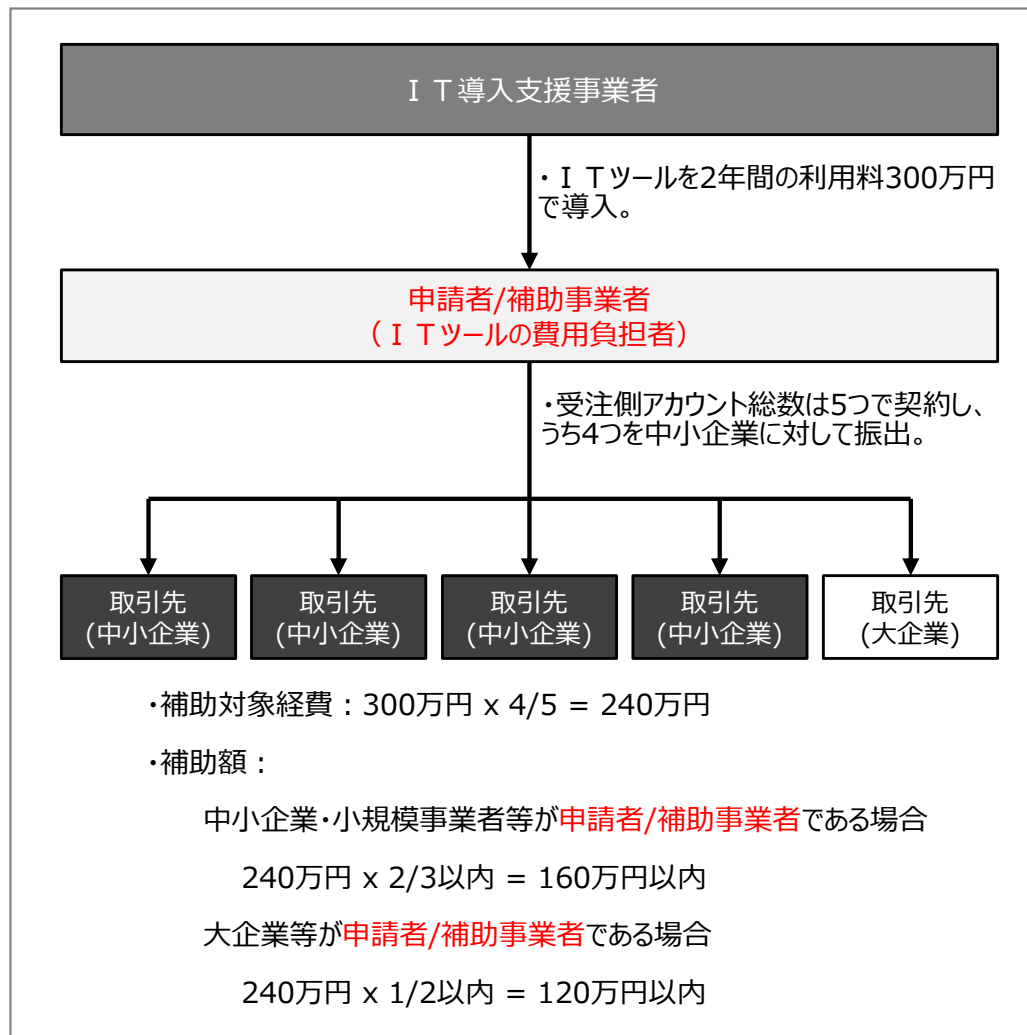
4. 補助対象経費

- ITツールの導入費用（クラウド利用料最大2年分）

5. 補助額・補助率

- 補助額 350万円以下
- 補助率 中小企業・小規模事業者等が申請する場合:2/3以内
大企業等が申請する場合:1/2以内

【補助額算出の一例】



セキュリティ対策推進枠の概要

1. 概要

- 中小企業等においてサイバーインシデントにより事業継続困難となる事態を回避するとともに、サイバー攻撃被害が供給制約や価格高騰を潜在的に引き起こすリスクや生産性向上を阻害するリスクを低減するための支援を行う。
- 具体的には、「サイバーセキュリティお助け隊サービスリスト」に掲載されているサービスのうち、IT導入支援事業者が提供し、かつ事務局に事前登録されたサービスを導入する際、サービス利用料（最大2年分）を補助する。

2. 補助事業者

- 中小企業・小規模事業者等（従来のIT導入補助金と同様）

3. 事業イメージ（例）

- 導入したサービスを活用して、サイバーインシデントのリスク低減に取り組む。

4. 補助対象経費（一例）

- ITツールの導入費用（サービス利用料最大2年分）

<留意点>

- ・中小企業等は、登録されたIT導入支援事業者への相談を行い、適切なITツールを選択し、申請すること
- ・本事業において補助の対象となるITツールは、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)が公表する「サイバーセキュリティお助け隊サービスリスト」に掲載されているサービスのうち、本事業においてIT導入支援事業者が提供し、かつ事務局に事前登録されたサービスを指す

【サイバーセキュリティお助け隊サービスリスト】<https://www.ipa.go.jp/security/otasuketai-pr/index.html>

5. 補助額・補助率

補助額5万円～100万円以下（補助率 1 / 2 以内）

1. IT導入補助金の概要
- 2. 申請要件・審査のポイント**
3. 申請方法から補助金交付までの流れ
4. これまでの実績
5. 活用事例

申請要件

- 申請要件のうち、特に留意すべき点は以下の通り。

- gBizID プライムの取得【**全枠**】
- 「SECURITY ACTION」の「★一つ星」または「★★二つ星」いずれかの宣言の実施【**全枠**】
- 労働生産性の向上に係る数値目標の作成
 - ・ 1年後に3%以上向上・3年の事業計画期間において年平均成長率を3%以上向上【**通常枠**】
 - ・ 3年の事業計画期間において年平均成長率を1%以上向上【**セキュリティ対策推進枠**】
 - ・ 2年の事業計画期間において年平均成長率5%以上向上【**複数社連携IT導入枠**】
- 賃金増加への取組の実施【**通常枠（導入するITツールの業務領域が4つ以上の場合）**】
 - ・ 事業計画期間において、給与支給総額を年平均成長率1.5%以上増加
 - ・ 事業計画期間において、事業場内最低賃金を地域別最低賃金＋30円以上の水準にする
 - ・ 申請要件を満たす賃金引上げ計画を従業員に表明
- 中小企業庁が実施するデジタル化支援ポータルサイト「みらデジ」における「みらデジ経営チェック」の実施【**通常枠**】

※申請に用いるgBizIDプライムを利用して事業者登録を行ったうえで、経営チェックを実施すること

「IT導入補助金」におけるみらデジの要件化 ※通常枠

- 申請にあたっては、**みらデジ経営チェック**を通じた自社の経営課題の把握や、**リモート相談**を活用した専門家・支援機関等への相談など、**「みらデジ」の活用が有効**。
- 通常枠において**「みらデジ経営チェック」を実施することを要件**とし、自社の経営課題に応じたツール導入を支援。 ※経営チェックの実施と併せて事業者登録も必須。



IT導入補助金を使って
デジタル化を進めたいが、
まず何をすれば良い？



IT導入補助金を使って、
我が社は**どのようなツールを導入**
すれば業務改善できる？

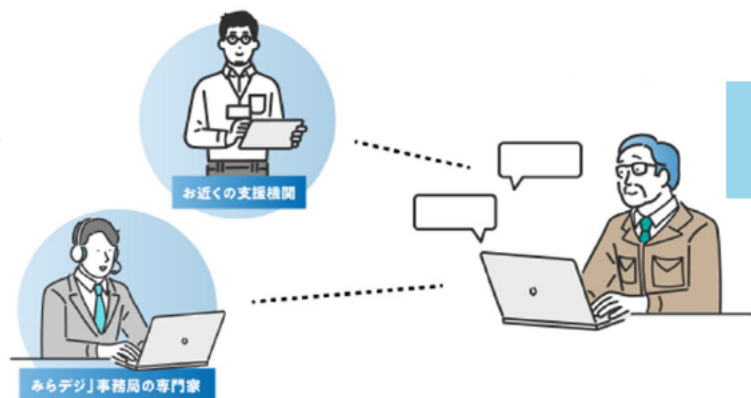
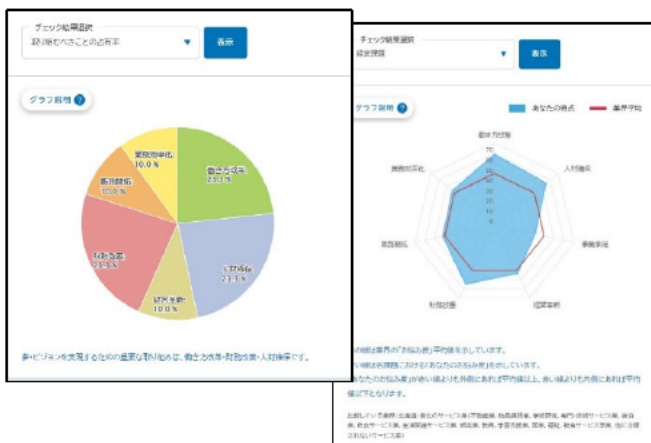
無料！

「みらデジ」を活用することで

みらデジ経営チェックで、
自社の経営課題やデジタル化への
取組状況を瞬時に診断！

みらデジリモート相談で、
デジタル化の取組に向けたアドバイスや
経営課題に合致したITツールを紹介！

IT導入補助金で、
自社の課題に合致した
ITツールを導入し、
デジタル化・DXへ！



「みらデジ経営チェック」と「みらデジリモート相談」

①『みらデジ 経営チェック』

経営課題やデジタル化への取組状況を確認しましょう！



中小企業等
事業者

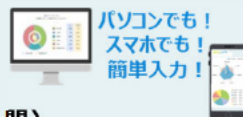
同業種・同地域の事業者と比較しながら、あなたの会社の経営課題やデジタル化への取組状況を確認出来ます！

事業者が経営課題を発見するためのツールです！



■ 事業者基本項目 (6問)

- Q1 経営者としての夢・ビジョンについて (3問)
- Q2 夢・ビジョンの達成に向けて取り組んでいること (7問)
- Q3 現状のデジタル化/IT化について、用語の理解と導入状況について (13問)
- Q4 経営やデジタル化、インターネット環境について (12問)
- Q5 経営課題の解決方向について / デジタル化のやり方・進め方について (5問)



②『みらデジ リモート相談』

専門家に相談しましょう！

無料！

中小企業診断士
ITコーディネータ



みらデジ
専門家

「みらデジ専門家」が相談対応と課題解決に向けたアドバイスをを行います！

中小企業等
事業者

電話



リモート面談



中小企業診断士
ITコーディネータ



みらデジ
専門家

- ・事業者のみらデジ経営チェックの解説
- ・事業者の経営課題への対応策
- ・支援施策の紹介
- ・個別支援の実施
- ITツールの導入アドバイス
- 経営計画の見直し
- IT導入補助金等への申請アドバイス
- デジタル対応人材の育成・採用、等

「みらデジ経営チェック」でわかること

「取り入れてみたが今は使っていない」

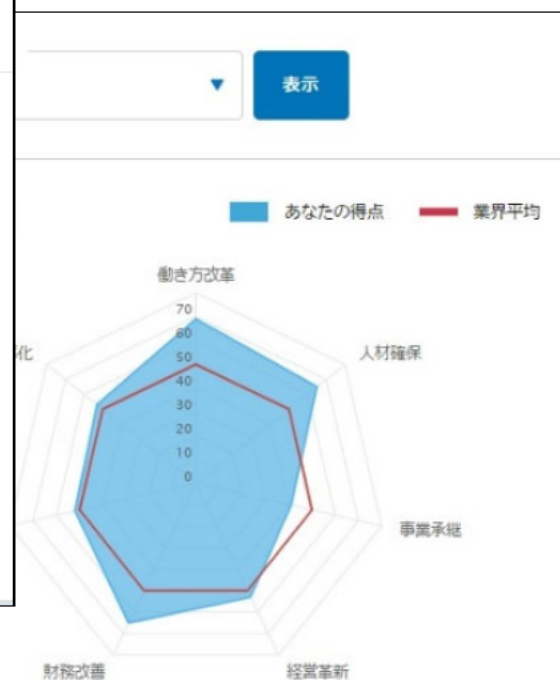
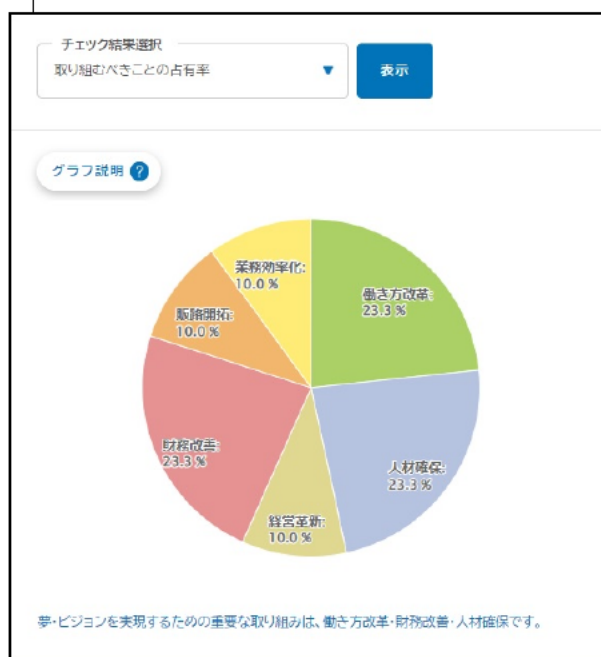
あなたの回答内容	業界導入率	ご提案
クラウドサービス ?	21%	なぜ使わなくなったのか/取り組めていないのかを振り返り、業務の負荷軽減のために活用を検討してみませんか。
グループウェア ?	16%	なぜ使わなくなったのか/取り組めていないのかを振り返り、業務の負荷軽減のために活用を検討してみませんか。

「使っていない/よくわからない」

あなたの回答内容	業界導入率	ご提案
Web会議システム ?	25%	今回のチェックを機に、導入を検討してみませんか。
EDI ?	13%	-
インターネット 広告 ?	13%	-
ERP・RPAなど ?	9%	-
EC(電子商取引) ?	7%	-

比較している業界：北海道・東北のサービス業（不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、教育、学習支援業、医療、福祉、複合サービス事業、他に分類されないサービス業）

同業種・同地域の事業者と比較しながら、事業者の経営課題やデジタル化への取組状況を確認！



赤の線は業界の「お悩み度」平均値を示しています。
青い線は各課題における「あなたのお悩み度」を示しています。
「あなたのお悩み度」が赤い線よりも外側にあれば平均値以上、赤い線よりも内側にあれば平均値以下となります。

比較している業界：北海道・東北のサービス業（不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、教育、学習支援業、医療、福祉、複合サービス事業、他に分類されないサービス業）

「みらデジリモート相談」で出来ること

事業者も！

支援機関も！

経営相談が！

無料！



みらデジ リモート相談申し込みの流れ

ステップ1

みらデジポータルより、
みらデジにご登録をお願いします。

ステップ2

電話または**専用問い合わせフォーム**
で事務局へご連絡ください！

ステップ3

事務局オペレーターが対応し**専門家**
との**相談日時を調整**いたします！

審査のポイント

- 審査のポイントのうち、特に留意すべき点は以下の通り。
- どの類型においても、自社の経営課題及びデジタル化の進捗状況を適切に把握し、その課題に対してITツール・サービス等の導入効果がマッチしているかが審査される。
- そのため、自社の経営課題の把握及び支援機関・専門家等への相談・連携が有効。

(1) 事業面の具体的な審査（事業面からの評価）

- ・自社の経営課題を理解し、経営改善に向けた具体的な問題意識を持っているか
- ・自社の状況や課題分析及び将来計画に対し、改善すべきプロセスが、導入する「ITツール」の機能により期待される導入効果とマッチしているか

(2) 計画目標値の審査（事業面からの評価）

・労働生産性の向上率

(通常枠の場合、1年後に3%以上向上・3年の事業計画期間において年平均成長率を3%以上向上)

(3) 加点項目に係る取組の審査（政策面からの評価）

- ・賃金増加への取組の実施
- ・生産性の向上及び働き方改革を視野に入れ、国の推進する関連事業に取り組んでいるか
 - － 地域経済牽引事業計画、健康経営優良法人、地域DX促進活動支援事業、介護職員等特定処遇改善加算、女性活躍・子育て支援、事業継続力強化計画
- ・クラウド製品を選定しているか
- ・「サイバーセキュリティお助け隊サービス」を選定しているか
- ・インボイス制度対応製品を選定しているか

※各枠によって内容は異なります。

1. IT導入補助金の概要
2. 申請要件・審査のポイント
- 3. 申請方法から補助金交付までの流れ**
4. これまでの実績
5. 活用事例

申請フロー（留意点）

- 中小企業・小規模事業者等とITベンダー・サービス事業者で申請・手続の内容は異なる。
- 申請には「gBizIDプライム」IDが必要。申請からアカウント発行まで2週間程度要する。
- 加えて、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が実施する「SECURITY ACTION」の宣言が必要。
- 中小企業庁が実施するデジタル化支援ポータルサイト「みらデジ」における「みらデジ経営チェック」の実施が必要（通常枠）。
- 交付決定の連絡が届く前に発注・契約・支払い等を行った場合は、補助金の交付を受けられない点に留意。

事務局の手続き

IT導入支援事業者/
ITツールの採択

交付決定

補助金額の確定

補助金交付

ITベンダー・
サービス事業者の
みなさまの手続き

IT導入支援事業者
登録申請
ITツールの登録申請

ITツールの
提案

契約・
ITツールの
納入

サポート・アフターフォロー

中小企業・
小規模事業者等の
みなさまの手続き

本事業の理解

ITツールの
選択等
事前準備

交付申請

補助事業
の実施

事業実績報告

補助金
交付手続き

事業実施
効果報告

交付申請までにgBizIDの取得、
「SECURITY ACTION」の宣言
みらデジ経営チェックの実施

交付決定の連絡後に
発注・契約・支払

生産性向上等の数値
目標の進捗状況を報告

申請フロー①（各手続の概要）

1. 本事業の理解

2. 「IT導入支援事業者の選定」「ITツールの選択」（事前準備）

- ・自社の業種や事業規模、経営課題に沿って、IT導入支援事業者と導入したいITツールを選定。（IT導入支援事業者のリストはHPに公表していく。）

3. 「gBizIDプライム」アカウントの取得、「SECURITY ACTION」の実施、

「みらデジ経営チェック」の実施＜通常枠のみ＞（申請要件）

- ・中小企業・小規模事業者等は必要。IT導入支援事業者は不要。
- ・gBizID発行には、申請からアカウント発行まで2週間程度要することに注意。

4. 交付申請（IT導入支援事業者との共同作成・提出）

- ・IT導入支援事業者との間で商談を進め、交付申請の事業計画を策定。
※この時点でITツールの発注・契約は行わないこと
- ・申請は以下の流れで行う。
 - ①IT導入支援事業者から『申請マイページ』の招待を受け、代表者氏名等の申請者基本情報を入力。
 - ②交付申請に必要な情報入力・書類添付を行う。
 - ③IT導入支援事業者にて、導入するITツール情報、事業計画値を入力。
 - ④『申請マイページ』上で入力内容の最終確認後、申請に対する宣誓を行い事務局へ提出。

申請フロー②（各手続の概要）

5. ITツールの発注・契約・支払い（補助事業の実施）

- ・交付申請を完了し、事務局から「交付決定」を受けた後に、ITツールの発注・契約・支払い等を行うことが可能。

6. 事業実績報告

- ・補助事業の完了後、実際にITツールの発注・契約、納品、支払い等を行ったことが分かる証憑を提出。
- ・提出は以下の流れで行う。
- ①中小企業・小規模事業者等が『申請マイページ』から事業実績報告に必要な情報及び証憑の添付を行い、事業実績報告を作成。
- ②事業実績報告が作成された後、IT導入支援事業者が内容の確認及び必要情報を入力。
- ③最終確認後、中小企業・小規模事業者等が事務局に事業実績報告を提出。

7. 補助金交付手続き

- ・事業実績報告の審査が完了し、補助金額が確定すると、『申請マイページ』で補助額を確認できるようになる。
- ・その内容を確認した後に補助金が交付される。

8. 事業実施効果報告

- ・事業終了後、生産性向上に係る数値目標に関する情報（売上、原価、従業員数及び就業時間）、インボイス制度への対応状況、ITツールを継続的に活用していることを証する書類、給与支給総額・事業場内最低賃金等を効果報告期間内に報告。
- ・補助事業者が『申請マイページ』より必要な情報を入力し、IT導入支援事業者の確認を経て、提出。

※通常枠の場合

年度	事業実施効果報告対象期間	事業実施効果報告期間
1年度目	2025年4月1日～2026年3月31日	2026年4月～2026年7月
2年度目	2026年4月1日～2027年3月31日	2027年4月～2027年7月
3年度目	2027年4月1日～2028年3月31日	2028年4月～2028年7月

1. IT導入補助金の概要
2. 申請要件・審査のポイント
3. 申請方法から補助金交付までの流れ
- 4. これまでの実績**
5. 活用事例

「IT導入補助金2022」の申請・採択結果

申請類型	申請件数（件）	採択件数（件）
通常枠	24,095	13,959
デジタル化基盤導入類型	45,836	37,639
複数社連携IT導入類型	7	4
セキュリティ対策推進枠	297	287
Total	70,235	51,889

「IT導入補助金2023」の申請・採択結果 ※2024年1月29日時点

申請類型	申請件数（件）	採択件数（件）
通常枠	21,487	16,174
デジタル化基盤導入類型	55,587	42,729
複数社連携IT導入類型	8	7
セキュリティ対策推進枠	239	208
Total	77,321	59,118

「IT導入補助金2022」の採択結果

- 採択件数は51,885件。全国で幅広く利用され、業種別では、卸売業&小売業、建設業で多く利用されている。

＜地域毎の採択件数＞

所在地	採択件数	所在地	採択件数	所在地	採択件数	所在地	採択件数
北海道	1,588	東京都	7,934	滋賀県	618	香川県	503
青森県	235	神奈川県	2,332	京都府	1,335	愛媛県	407
岩手県	367	新潟県	872	大阪府	4,916	高知県	251
宮城県	640	富山県	448	兵庫県	2,043	福岡県	3,417
秋田県	220	石川県	562	奈良県	418	佐賀県	452
山形県	339	福井県	432	和歌山県	369	長崎県	744
福島県	524	山梨県	312	鳥取県	213	熊本県	895
茨城県	786	長野県	808	島根県	268	大分県	526
栃木県	590	岐阜県	1,048	岡山県	899	宮崎県	418
群馬県	921	静岡県	1,422	広島県	1,203	鹿児島県	755
埼玉県	1,917	愛知県	3,535	山口県	533	沖縄県	699
千葉県	1,277	三重県	644	徳島県	250	総計	51,885

＜業種別の採択件数＞

業種	採択数	割合 (%)
卸売業, 小売業	10,761	20.7
建設業	10,716	20.7
製造業	6,139	11.8
宿泊業, 飲食サービス業	4,328	8.3
医療, 福祉	4,234	8.2
学術研究, 専門・技術サービス業	4,087	7.9
サービス業（他に分類されないもの）	3,315	6.4
生活関連サービス業, 娯楽業	2,359	4.5
不動産業, 物品賃貸業	2,275	4.4
情報通信業	1,121	2.2
運輸業, 郵便業	1,046	2.0
その他（農業、金融業等）	1,504	2.9

＜従業員数別採択件数＞

従業員数	採択数
5名未満	17,156
5～50名未満	27,984
50～100名未満	3,689
100名以上	3,056

＜交付額規模毎の採択件数＞

補助額	採択数
100万円未満	24,571
100万円以上150万円未満	11,100
150万円以上300万円未満	9,327
300万円以上450万円未満	6,799
450万円	88

※いずれも複数社連携IT導入類型の件数は除く

1. IT導入補助金の概要
2. 申請要件・審査のポイント
3. 申請方法から補助金交付までの流れ
4. これまでの実績
5. **活用事例**

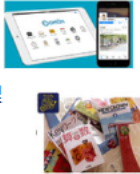
ITツールの導入／活用事例（28補正・サービス等生産性向上IT導入支援事業）

学習業

- ・バレイ教室と学習塾を併設。予約管理や生徒の出欠をITツールで管理。
- ・業務効率化により、授業やレッスン内容の充実化や保護者との連絡が円滑化する等、サービス向上に寄与。

導入したITツール

- ・主な機能：コミュニケーション、顧客管理、人事シフト、原価管理・業務管理



建設業

- ・3次元パース（画像）での施主へのわかりやすい提案や顧客情報管理によるサービスの向上を実現。
- ・企画設計についても、これまでの業務比10%以上の効率化を図ることが可能に。

導入したITツール

- ・主な機能：販売・店頭、顧客管理



製造業

- ・2日要していた給与計算と管理帳票の作成が数時間程度の作業となり、大幅な業務効率化。
- ・残業時間の即時把握が可能となり、残業時間削減の意識向上に寄与。

導入したITツール

- ・主な機能：コミュニケーション、人事シフト、原価管理・業務管理、給与



通信業

- ・クラウドで即時に業績を可能に。月次の経営管理資料作成日数を5日間削減。
- ・各種精算データを会計システムに入力する作業が2時間から0に。今後社員が増加しても作業量は増加しない見込み。

導入したITツール

- ・主な機能：受発注、原価管理・業務管理、財務・会計管理

清掃業

- ・売上計上漏れの防止や請求回収漏れの防止、事務と営業の情報共有の円滑化による作業時間の短縮を実現。
- ・事業計画作成を通じ、経営課題を発見。生産性向上に係る社員の意識改革にも寄与。

導入したITツール

- ・主な機能：顧客管理、受発注、原価管理・業務管理



士業

- ・顧客情報の一元管理、システム間の円滑なデータ連携により、データの入力関連の業務が効率化。
- ・税務届出書類の確認、作成、提出が電子化され、業務効率化を実現。

導入したITツール

- ・主な機能：コミュニケーション、販売・店頭、決済顧客管理、原価管理・業務管理、財務・会計管理



飲食業

- ・原価率の見える化を通じて、仕入れ価格の削減に努める等、経営の体質改善を実現。
- ・Excelで管理していた給与計算を効率化（手書きで半日→1時間）

導入したITツール

- ・主な機能：決済、顧客管理、原価管理・業務管理、財務・会計管理、給与

宿泊業

- ・手書きの予約台帳をスタッフ全員に配っていたが、予約、会計管理、顧客情報等の情報をタブレットでスタッフ間において共有するITツールを導入。
- ・導入後3年間で売上35%増を実現。

導入したITツール

- ・主な機能：予約、顧客管理、原価管理・業務管理、財務・会計管理



医療業

- ・予約、顧客/財務管理の一括管理、自動入力による効率化を実現（1患者当たり1分削減）。
- ・入力ミス解消により、訂正に係る作業時間を削減（1件10分程度）。

導入したITツール

- ・主な機能：予約、顧客管理、原価管理・業務管理、財務・会計管理

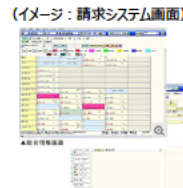


介護業

- ・転記等の2重作業が解消し、請求業務に係る時間が1割に。
- ・作業時間短縮により、新規事業へ注力する余裕が生じるとともに、顧客訪問前の職員とヘルパーとの情報共有も充実。

導入したITツール

- ・主な機能：顧客管理、原価管理・業務管理、財務・会計管理



保育業

- ・帳票の作成、確認時間短縮（園長60分/月、保育士1名130分/月の削減）。
- ・登降園、出退勤の集計作業時間の短縮（園長120分/月、保育士1名75分の削減）

導入したITツール

- ・主な機能：コミュニケーション、顧客管理、人事シフト、原価管理・業務管理



小売・卸

- ・人事管理と会計・給与計算のシステムを導入し、システム連携させることにより、業務時間短縮を実現（約10時間/月）。
- ・今後は人事管理システムも本格稼働させ、さらなるIT化を図る。

導入したITツール

- ・主な機能：業務管理、財務・会計管理



IT導入補助金の活用事例（小売業）

IT導入補助金2020 活用事例

小売業

株式会社かがし屋



対象業務プロセス：

④ 業種特化型

【申請類型】

IT導入補助金2020 通常枠（A類型）

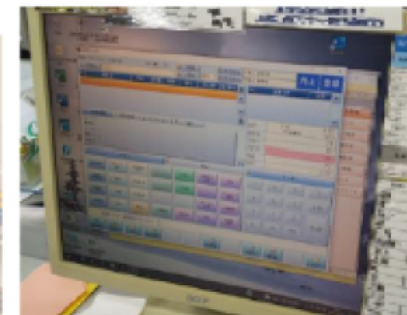
【事業者情報】

住所：福岡県うきは市 設立：1979年 従業員数：352名
売上高：約7,763百万円 URL <https://www.kagashiya.co.jp/>

・文具用品・OA機器販売、介護福祉事業、
ドコモショップの運営など、多角的に事業展開

・経済産業省「地域未来牽引企業」選定企業

・SDGsの自社目標を毎期定め、積極的に取り組んでいる



導入したITツールの操作画面

抱えていた経営課題



- 携帯電話に関するアイテム数が増加する中、棚卸は手作業で行っており、商品数の把握に時間を要していた。
- 従業員の勤務時間短縮を進めていきたい。
- これまで使っていたPOSシステムのライセンス期間が終了し、次期システムの導入が必要になっていた。

導入後の変化、効率化された業務

- 携帯電話本体等に関する最新のマスターデータが、リアルタイムに配信されるようになった。
- RFIDリーダーを使った棚卸に変更。一回の処理で商品の入荷処理を一括で行うことができるようになった。
- 電話で確認せずとも、各店舗の在庫をリアルタイムで把握できるようになった。

導入したITツール

携帯電話販売管理ネットワークシステム
MK.NS（本部機能・店舗機能）

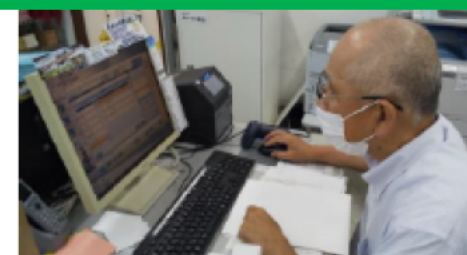
<https://www.broadleaf.co.jp/products/mkns/>

携帯電話本体、付属品といったカタログデータが自動配信されるだけでなく、売上・仕入・在庫も一元管理でき、業務効率化にも寄与する。

IT導入支援事業者 株式会社ブロードリーフ

成果

全店舗への導入により
棚卸時間が
50%削減見込み！



- スピーディー、かつ、今まで以上に正確な棚卸作業を実現。
- 商品在庫のある店舗を即座に把握できるようになり、販売ロスの削減と顧客満足度の向上につながった。

IT導入補助金の活用事例（製造業）

IT導入補助金2021 活用事例

製造業

ケースメタル株式会社



対象業務プロセス：

- ② 決済・債権債務・資金回収
- ④ 会計・財務・経営

【申請類型】

IT導入補助金2021 特別枠（c類型-1）

【事業者情報】

住所：富山県高岡市

設立：2005年

従業員数：33名

URL <http://ks-metal.co.jp/>

- ・ 金属製品の精密加工板金、工作機械のカバー製作等を手掛ける。
- ・ ロボットなどの機械化や自動化による生産性向上を進めている。
- ・ 経済産業省「地域未来牽引企業」選定企業。
- ・ 中小機構の「IT経営簡易診断」を利用。

Challenge to Change

変わりつづける、挑戦。



2021年竣工の新工場

抱えていた経営課題



- 計画的なIT化を進めることができず、会計システムも事業規模に合わなくなっていた。
- 会計事務所とのやりとりは紙ベースで、試算表の作成に2ヶ月ほどかかっていた。
- 新工場建設とコロナ禍という状況下で、リアルタイムに業績を管理し、迅速な経営判断・意思決定につなげたいという思いがあった。

ITツールを活用して労働生産性を高め、少人数でも強い組織をつくる！

- 中小機構の「IT経営簡易診断」を受けたところ、経理業務におけるIT化の遅れについて指摘を受け、IT導入補助金の活用を決意。
- IT導入支援事業者のサポート体制が手厚く、困ったときにすぐ電話や対面でサポートしてくれた。
- IT化の目的・メリットを従業員に具体的に示すなど、労使間の信頼関係を損ねないように配慮した。

導入したITツール

FX4クラウド

<https://www.tkc.jp/fx4/>

経営に活かせる戦略情報をタイムリーに提供し、迅速な意思決定を強力にサポートする。電子帳簿保存法やインボイス制度にも対応。

IT導入支援事業者 TKC全国会

成果

経理業務が飛躍的にスピードアップ
試算表の作成が
2か月から1か月に(50%短縮)！



- クラウド化によって、会計事務所とリアルタイムにデータを共有することが可能になった。
- 試算表作成期間の短縮や業務効率化によって、今後の経営を考える時間ができた。
- 補助金でIT化や自動化を進め、会社の魅力を高めることができた。

IT導入補助金の活用事例（その他サービス業）

IT導入補助金2021 活用事例

その他サービス業

株式会社アドバンス北陸サービス



対象業務プロセス：

- ② 決済・債権債務・資金回収
- ③ 調達・供給・在庫・物流
- ⑥ 業種固有プロセス

【申請類型】

IT導入補助金2021 通常枠（A類型）

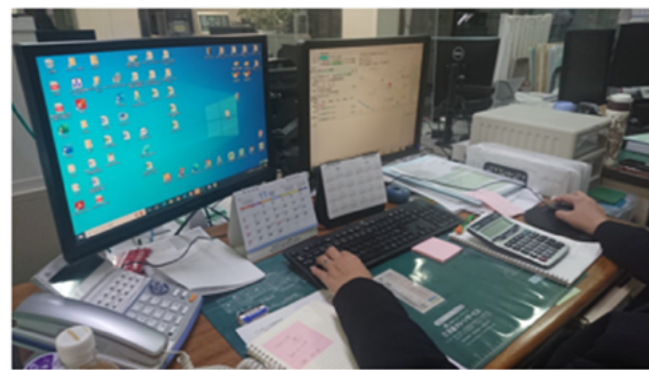
【事業者情報】

住所：石川県金沢市 設立：1988年 従業員数：232名

売上高：約390百万円

URL <http://www.advantechokuriku.co.jp/index.html>

- ビルメンテナンス業務、各種工場施設の清掃並びに環境整備等
- 建物を利用するすべての人々に衛生的で快適な空間の提供を目指す
- 中小機構の「IT経営簡易診断」を利用。



抱えていた経営課題



- ビルメンテナンス業務に関して、ベテランの責任者しか作業員の勤務シフトを組むことができない状況に陥っていた。
- 前日や当日までシフトが出ない状況が恒常化。作業員はぎりぎりまで自身の勤務シフトが分からなかった。
- 作業員の希望シフトの申請が少なめになり、人手不足に陥っていた。

AIを活用して、勤務シフト作成の自動化を目指す！

- 中小機構の「IT経営簡易診断」による客観的なアドバイスで、全従業員が自社の課題やIT化すべき点を把握することができた。
- IT導入に抵抗感を示す従業員もいたが、継続的な導入と、事業の発展にIT化が必要であることを丁寧に説明し、納得してもらった。
- シフト作成にAI機能を活用することとしたが、AIの運用には時間がかかるため、従来の管理方法と併用しながら地道に学習を行わせている。

導入したITツール 助プロG-CM3

<https://dansuke.net/>

中小製造業向けの総合基幹業務管理システム。
生産計画をAIが最適化し、ガントチャート自動作成
事務処理を大幅に合理化・効率化する。

IT導入支援事業者 株式会社エヌジェイシー

成果

約1ヶ月先まで勤務シフトが組めるようになった！



- ぎりぎりとなっていた勤務シフトの作成が、誰でも1ヶ月先のシフトが組めるようになり、事業継続力が高まった。
- 従業員が予定を立てやすくなったことからストレスが減少し、人材確保につながっている。

- サービス等生産性向上IT導入支援事業
後期事務局ポータルサイト

<https://it-shien.smrj.go.jp/>

